

東京桑野会会報

●2021年4月1日発行 ●発行・編集人 古川清 ●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



No.43

「つつじの咲く安積高校」
(母校学校長室に掲額)
作：水田荘介 (旧制安積中 37 期卒)

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清



「故郷 (ふるさと)」という概念は、交通機関のスピードの向上により段々インパクトを失いつつある様だ。私が大学に入った頃、郡山から東京迄は、汽車で6時間位は掛かったと思う。それが今は1時間20分で着いてしまう。通勤圏内である。すると故郷・同窓の帰属意識は薄くなり同窓会の求心力は低下してしまうのであろう。やはり「ふるさとは遠きにありて思ふもの (室生犀星)」かも知れない。

他方、生活が都市化し、個人主義化してくると、改めて動物である人間は物理的にも精神的にも群れで生活するのが本来の姿であるとの先祖帰りの意識が芽生えて来るのではあるまいか。少なくとも、安積中学・安積高校の卒業生は同じ学舎で学んだというプライドを持ち、数多くの優秀な先輩たちに思いを致し、同輩・後輩達とのつながりを強化して生活の質を高めることに努力すべきものと信ずる。

東京桑野会2021（令和3）年度定期総会・懇親会のお知らせ

東京桑野会では下記の要領にて、定期総会・懇親会の開催を予定しております。

しかしながら、新型コロナウイルスに基づく社会情勢の動きによりましては、急遽、定期総会・懇親会の開催を見送らざるを得ないことも考えられますので、どうぞご理解ください（その際は、あらかじめ事務局から出席回答者へ個別にご連絡申し上げます）。

本年の総会を実施する場合、開催場所とも協議のうえ、変則的ですが次の要領で行うこととなりますので、あらかじめご承知おきください。

(1) 日 時：令和3年6月4日（金曜日） 17:00 受付開始

17:30 総会開始

(2) 場 所：ホテル椿山荘東京

東京都文京区関口2-10-8 TEL03-3943-1111

(3) 会 費：懇親会費 ¥10,000（年会費は含みません）

(4) タイムスケジュール

17:00～ 受付開始

17:30～ 令和3年度定期総会

18:00～ 懇親会

19:00 解散

●当日は、総会・懇親会とも、参加者はテーブル席にて着席のうえおこないます（参加者の移動なし）。

●食事は、椿山荘しつらえのお重となります。飲みものはビール・ワイン・ウィスキー・ソフトドリンクです。

なお、会場の都合上、参加者の人数に制限があります。

①同封のハガキには、出席者のみ連絡先等明記のうえ投函願います。

②年会費2,000円は、総会出席の有無とは別に、同封用紙によりお振込をお願いいたします。

③懇親会費10,000円は、総会当日、現金でお支払いください。

◇昨年度は、2020年6月5日（金曜日）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急遽中止となりました。

☆母校は今年（2021年、令和3年）、創立137周年を迎えます。その母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆2020年2月3日、横浜港にクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が寄港、日本における新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の事実が始まることとなりました。このCOVID-19の流行は1年後の現在も終息する気配はありません。母校も、影響を大きく受けました。母校措置もとられました。多くの学校行事も規模の縮小や、開催中止とせざるをえませんでした。

☆体育祭は、例年より2か月遅れの9月に、感染防止のための種々の制約をもうけたうえで実施されました。それでも、最終種目のクラス対抗リレーでは、「3年生は恒例の仮装を行い、非常にもりあがった」とのこと。んっ？恒例の仮装？いつから？ 私の記憶

ではリレーでの仮装は91期3年6組が最初だったのではないかと、そして仮装でのリレーが恒例になっているとは・・・（遠い目）。

☆恒例のロードレースは中止、とのこと。なお、ロードレースの前身、駅伝大会は91期が1年生の時に始まったものです・・・（遠い目Part2）

☆修学旅行も中止、ああ・・・。

☆部活動は、県レベルの大会はなんとか開催されたものも多く、母校の後輩諸君は、鍛錬の成果を発揮してくれました。

☆COVID-19禍前の2019年3月27日、母校はSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）第II期に指定されました。それを受け、2020年度からはSS特別科目を含むカリキュラムが実施されています。10月には、スタンフォード大学の科学者とOnlineで結び、講演をして頂き、質疑応答も実施しました。すごい時代になったものだ（いろ

いろな意味で）。出でよ、未来の科学者！

☆大学受験でも、2020年度（2020年春の入学）の学生は、新型コロナウイルスの影響拡大に伴い、大きな影響を受けました。また、センター試験は2020年1月の実施分を最後に廃止されることとなっていましたので、2020年春の入学を決めた！、という生徒も多かったことでしょう。厳しい状況に打ち勝ち、首都圏の大学では、東京大3、東京工業大3、一橋大1、東京学芸大4、東京農工大3、慶応義塾大11、早稲田大17、明治大14、青山学院大7、立教大8、中央大16、法政大19、など、合格者を数えました。

☆2021年度の入学分からは、大学入学共通テスト：共通テストがスタートしました。2021年4月に、どれだけの安積OB・OGが首都圏に出てきたのでしょうか。生の声を、東京桑野会総会などで、東京桑野会のメンバーに聞

かせて下さることを期待しています。

会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。()は期、逝去された日。敬称略。

上村玄之助(41期)

宮原 胖(46期)(平成31年3月18日)

太田 壽(53期)(平成30年7月26日)

百瀬 和義(53期)(平成24年)

鈴木 義光(54期)(平成31年4月26日)

上田 正之(55期)(令和元年8月10日)

岡山 嶺(56期)(令和3年1月29日)

齋藤 俊郎(56期)(令和2年6月5日)

池田 和男(58期)(令和2年1月11日)

熊田 浩久(58期)(令和元年10月29日)

紺野 嘉夫(59・60期)(平成30年1月3日)

安齋 和雄(62期)(令和2年3月28日)

平 幸雄(62期)(平成28年12月16日)

大橋 力雄(63期)(令和2年9月8日)

杉野 美晟(63期)(令和元年)

橋本 伸一(63期)(令和元年10月22日)

渡辺 徳栄(63期)(令和2年3月13日)

赤羽 弥(64期)(平成25年)

伊藤 日吉(64期)(平成30年9月17日)

米田 次夫(64期)(令和元年11月22日)

高浜 俊也(65期)(平成28年8月31日)

大槻 吉信(66期)(平成31年3月30日)

榎村 好夫(66期)(令和2年1月19日)

吉田 龍雄(66期)(令和元年6月)

佐藤 善英(67期)(令和元年10月6日)

松川 勇二(67期)(平成31年4月)

小泉 邦夫(68期)(平成30年9月21日)

野口 隆(68期)(平成31年3月25日)

古河 保明(68期)(令和2年2月2日)

斉藤 英彦(69期)(令和2年5月20日)

菅野 弘行(69期)(令和元年12月8日)

佐藤 佐(70期)(平成31年2月5日)

鈴木 三郎(70期)(令和2年1月31日)

生天目 毅(70期)(令和2年2月6日)

鈴木 武信(71期)(令和元年8月23日)

深沢 誠(71期)(令和元年12月9日)

遠藤 紘(72期)(令和元年10月24日)

久保田富夫(72期)(令和2年3月18日)

高松 豊(74期)(令和3年1月17日)

遠藤 孝夫(79期)(令和元年10月1日)

高橋 弘二(79期)(令和元年11月27日)

高坂 正博(94期)(令和元年8月22日)

大出 章良(101期)(平成28年4月2日)



未来へ向けて

安積桑野会会長
安孫子健一(80期)

東京桑野会の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。また昨年度も、安積桑野会の活動にご支援・ご協力を頂き、感謝申し上げます。ありがとうございました。

昨年は年初からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校行事や学内外活動は制限され、日程等の変更を余儀なくされました。そのような中、133期卒業生の表彰式・卒業式、136期生の入学式は当初の日程通り挙行さ

れました。在校生の参列はなく、来賓の人数や挨拶も限定される状況でしたが、133期生・136期生ともに現実をしっかりと受け止め、様々な困難を乗り越えてくれるものと思います。

桑野会活動も新型コロナに翻弄された1年でした。

1月6日に行われた恒例の安積高校関係者新年会は、3会(PTA、桜桑会、桑野会)と学校が合同で実施した唯一の会合となりました。その後の祝賀会、歓送迎会等々の集まりも年明けの現在まで全て中止となっています。

各地桑野会総会も、折角準備計画して頂きましたが、残念ながら軒並み中止状態に追い込まれてしまいました。唯一、8月1日に石川桑野会の総会が滞りなく行われました。

令和元年の東日本台風では大変な洪水被害を受けた地域ですが、皆さんの

無事と復旧へ向けての努力を確認することができました。

また安積桑野会総会は当初の予定を変更して、9月5日に安積歴史博物館を会場に総会・講演会の内容で開催させて頂きました。コロナ禍の影響もあり参加者は大幅に減りました。今年は各地桑野会の総会が通常通り開催されることを願っています。

ところで母校は、昨年の新入生から1クラス減り1学年7クラス280名となりました。4年後の令和7年には初めて中学生を迎え、中高一貫の学校となります。現在新校舎の検討に入っている様ですので、数年後には建物の全容が示されるものと思います。未来に向けて「安積の歴史と精神」を継承できる施設を望むところです。

さて、東日本大震災から丸10年を迎えました。しかし未だ県内外への避

ひととき、日々の喧噪を離れて。

そこには、さながら森のような庭が広がっています。
東京のまん中にあるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。
At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.

ホテル椿山荘東京
〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
10-8, Sckiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
TEL.03-3943-1111

世界をもてなす、日本がある。

HOTEL 椿山荘 TOKYO
CHINZANSO

難者は3万5千人を超えています。昨年度までの第一期復興・創生期間は終り、令和3年度から第二期の復興・創生期間が始まります。被災地に於ける国の復興事業は概ね完了に向かっていますが、福島県内は原発事故の影響が大きく残り、現在も多くの問題を抱えています。難しい課題ばかりですが速やかな解決が望まれます。

フジテレビ系（FTV）で放送中のドラマ（3月13日まで）があります。題名は「その女、ジルバ」、会津若松市出身の漫画家 有間しのぶさんの同

名コミックが原作です。福島弁や県民ネタが散りばめられ、深夜帯のドラマとしては多くの視聴者の人気を集めています。

その番組プロデューサーの一人に122期生の雫石瑞穂さんがいます。彼女は在学中、NHK杯全国高校放送コンテストで準優勝した経歴の持ち主です。

このドラマは、ひょんなことからホステスになったアラフォー女子が、平均年齢70才という高齢ホステスのバーで働くことで、登場する女性の生

きざまや魅力に触れ生きる喜びを知る物語だそうです。彼女はドラマを通して年齢を重ねても挑戦できることを伝え、福島の人々に明るい気持ちになって欲しいと考えています。後輩の活躍は心強く将来が楽しみです。

コロナ禍の中で3密を避けることが求められ、同窓生の絆を結べない状況ですが、若い人たちの挑戦が必ずや明るい未来を開いてくれると信じます。

新型コロナウイルスの終息は見通せませんが、会員の皆様のご健康を心から願っています。



「一枚の絵」 の記憶

安積高等学校長
小島 稔

令和2年11月24日（火）午前、校長室に「一枚の絵」が持ち込まれました。

運んでくれたのは、安積高校御館校の分校長である鈴木和明教頭。安積高校の音楽関係の活動に詳しい方は、音楽教師として本校合唱団を全日本合唱コンクール全国大会に導いた指導者であると記憶しておられると存じます。

さて、鈴木教頭が持ち込んだ油絵の画題は、「つつじの咲く安積高校」。

描いた画家は、水田荘介氏。水田先生と言えば、年配のOB諸兄には、懐かしいお名前のはずです。水田先生は、二本松市出身で安中37期（大正14年卒）。その後、東京美術学校（現・東京藝術大学）に学び、卒業後は、愛知県西尾女学校で教鞭を執られ、福島に帰郷後は、昭和23年1月31日から昭和43年3月31日まで母校で美術教師として活躍されました。安高新聞に度々記事を執筆され、その記録は縮刷版に残されています。一水会会員の画家として数多くの作品を残され、退職後は日本大学非常勤講師、郡山女子大学短期大学部非常勤講師としても活躍され、昭和61年9月1日に逝去されました。

「つつじの咲く安積高校」は、昭和51年3月頃の作品です。

この作品は、母校第28代校長であった鈴木勝枝校長（在職期間：昭和48年4月1日から昭和51年3月31日）の御退職に際し、「三会（安積桑野会・桜桑会・PTA）」から記念品として贈呈されたもので、「三会」から依頼された水田先生が描いたものです。

長く鈴木校長先生の御自宅にあったものですが、鈴木校長先生がお亡くなりになったのち、娘婿の斎藤宏氏（かつて本県高校教諭として県北地区の高校で活躍された）が管理することになりました。さらに、平成28年8月6日（土）に、斎藤先生の福島大学の後輩である鈴木暉夫氏（母校75期（高校14期）：本県の商業科教員として活躍し、小高商業高校の校長で退職）が斎藤先生から譲り受けることとなりました。母校のOBでもある鈴木暉夫先生は、自らが管理していたものの、この「一枚の絵」は安積高校の校長が所有すべきである、とのお考えをお持ちであったようです。

そののち、一昨年（平成31年）4月の教職員人事異動により、鈴木暉夫先生の御息である和明先生が新任の教頭として御館校に赴任することになりました。同時に、和明先生が前職の指導主事として勤務していた福島県教育庁高校教育課の課長であった私が、安積高校の校長として赴任したことから、暉夫先生はかねてからの考えにしたがい、安積高校の校長にこの「一枚の絵」を贈呈しようということになり、和明先生が、福島の御実家からお預かりして、本校の校長室まで運んで

くれたというのがこの絵の変遷となります。

この場面には、ちょっとした前段があります。

校長に運び込まれる3日前の令和2年11月22日（土）、福島県立橋高校（旧福島女子高校）において、福島県高等学校文化連盟囲碁専門部会による「OB教員との強化練習会」が開催されました。私は、主催者である囲碁専門部長という立場で参加しました。県内高校の囲碁部員が8名参加し、OB教員5名、現役教員3名との指導暮をとおして、棋力向上を図るという目的で行われたものです。このとき、OB教員のなかに鈴木暉夫先生がおられ、御息が和明先生であることとともに「一枚の絵」にまつわるお話を伺い、贈呈したいとの申し出がありました。ちなみに、この強化練習会には、母校76期で、旧職員・教頭でもあった君島整先生（橋高校の校長で退職）も参加しておられ、対局をとおして熱心に御指導いただきました。

私は、絵画に対する素養も知識も持ち合わせておりませんが、サイズはF6ほどで正面玄関北側の庭から東側に見える風景を描いたもので、画面中央から右半分には北校舎の一部と旧本館を描き、画面左半分には、つつじの咲く庭と奥に向かって庭園の植栽、旧本館を囲む木立が描かれており、旧本館前に収束する遠近法が使われています。現在は、北校舎の北側には職員駐車場がありますが、かつては緑の植栽があり、旧本館から正面玄関にいたる緩やかに弧を描く小径があったことがわかります。北校舎は昭和38年に竣

工されたので、10年ほど経過した鉄筋コンクリートの校舎と旧本館が並んで描かれており、安積高校の歴史と伝統とともに、時代の変革を感じるところです。

また、旧本館玄関2階のバルコニーを支える柱は、正面部分にしっかりと2本描かれています。現在は、この2本の柱は撤去されています。OB諸兄には、このあたりの背景をご存じの方も多いことと拝察いたします。

第28代鈴木勝枝校長が在職していた3年間の学校沿革を振り返ってみると、着任直前の昭和48年3月31日に、旧本館が県重要文化財に指定されています。8月にはプールが完成。昭和49年10月には、校門建設工事が完成。同月には、格技場とクラブ室（小針記念館）も完成しました。同年11月には、創立90周年記念式典が挙行されました。昭和50年6月には卓球場が完成。10月には、新城松、朝河桜記念碑除幕式挙行。11月には、90周年記念第1回校内駅伝競走大会が開催されました。

私は、安積高校OBではありませんが、同年代は92期。昭和51年4月に高校入学です。鈴木校長が入学を許可した昭和48年入学生は89期、49年入学が90期、50年入学が91期ということになります。卒業で見ると、昭和49年3月（48年度）卒業は87期、50年3月（49年度）が88期、51年3月（50年度）が89期となります。

本県最大規模の生徒数を誇る安積高校ではありますが、母校を愛する同窓生の皆様におかれましては、自身の在籍期間における校長の顔と名前はしっかりと記憶されているものと思います。

というところで、この「一枚の絵」の今後の管理については、鈴木暉夫先生から贈呈いただくこととなった趣意を慮り、この絵の文化的かつ歴史的価値を後世に引き継いでいくことが現役校長の責務であると自覚するところにより、本校校長室に掲額することといたしました。

校長室には歴代校長の肖像写真とともに、高山樗牛、新城新蔵、朝河貫一、小西重直、久米正雄、中山義秀、東野辺薫、そしてハリファックス先生の肖像写真も掲額されています。「つつじの咲く安積高校」がかつての母校の様子を描いた「記録」であり「記憶」であることから、校長室こそ最もふさわ

しい居所であると確信する次第です。

令和3年1月現在、卒業学年である134期生は、第1回大学入学共通テストの受験を終了し、それぞれ国公立大学、難関私立大学の受験に向け、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、奮闘努力しております。134期生は、大学入試の度重なる制度変更により翻弄され、さらにコロナ禍による学習活動の制限及び部活動の自粛など、これまで当たり前に行われてきた教育活動が実践できない中で、新たな進路に向かって母校を巣立つこととなりました。その成果は、次年度に御報告させていただきます。

また、令和7年4月開校予定の併設中学校新校舎建設に向けて、着々と準備を進めております。旧本館、高校校舎、中学校校舎が渾然一体となった新生安積高等学校・安積中学校（仮称）に学ぶ後輩諸君の活躍が待ち遠しいところであります。

このコロナ禍のなか、残念ながら桑野会の活動も停滞した1年でしたが、令和3年は、この閉塞感を払拭して、新たな飛躍の年になることを期待してやみません。

結びにあたり、私ごとで恐縮ですが、この令和3年3月31日をもって定年退職となります。37年間の教員生活の最後に本県で最も長い歴史と輝かしい伝統を誇る安積高等学校に勤務できたことは、私にとっても名誉なことでもあります。これもひとえに、皆様の御支援により叶ったことであると、改めて感謝申し上げます。

東京桑野会が今後ますます盛会となることをお祈り申し上げますとともに、母校安積高等学校に対するなお一層の御支援をお願い申し上げます、校長のあいさつといたします。

[追記]

社会科教員としての性なのでしょうが、水田荘介先生の事績をたどっていたところ（と言ってもインターネットで調べただけですが）、水田先生は、東京桑野会の「会旗」をデザインされたという記事を発見しました。東京桑野会会報No.20の13ページに、「東京桑野会の旗」と題して、中路信氏（65期）が一文を寄せておられます。

1998年4月1日発行の会報No.20の冒頭、澤田悌会長による御挨拶には、

「新たな希望を持って新年を迎えたのでありますが、バブル崩壊の傷は今なお深刻で、経済も金融もそして政治もなお混迷を続けそうです。」と記されています。「しかしこの現状に耐えこれを乗り越えていくことが国民的課題です、早く安定と繁栄を取りもどし、2年後には輝かしい21世紀を迎えたいものです。その時は我が安積の母校の歴史も実に3世紀に亘ることになります。母校も桑野会も更に充実発展を続け、同窓の皆様も一層ご健康でありますよう祈念いたします。」とも述べられています。

さて、13ページに掲載の中路氏の文章は、1998年から遡ること30年、東京桑野会の幹事であった中路氏が当時の壁谷祐之会長から「会旗」を作るよう命じられたところから始まり、恩師である水田荘介先生にデザインを依頼したこと、「東京桑野会」の題字は橋本万之介参議院議員の揮毫によること、馬喰町の「三上旗店」に向向いて依頼したこと、11月の総会には水田先生が特別招待され、壁谷会長の同期生である中山義秀氏や当時現役でのちに会長となる澤田悌氏が出席されたことなど、丁寧に記されています。一行ごと、ゆっくり読み進めていくと、安積の同窓生の絆の強さと母校愛に思いをいたし、思わず目頭に熱いものがこみ上げてくるのを止められませんでした。

私も校長として一昨年、初めて東京桑野会に出席し、会の盛況ぶりを目の当たりにして、これが、県下随一の歴史と伝統というものかと感動するとともに、来年も母校の近況をつぶさに報告しなければならないという使命感を抱いたところでした。残念ながら、コロナ禍により会は中止となり出席は叶いませんでしたが、いま会報のバックナンバーを手に取り、かつては東京桑野会の活性化に御苦労されていた時期があったことや、「会旗」作成の裏話を知り得ていれば、また違う感慨があったのだろうと思う次第です。

現役の生徒たちには安積の先輩・後輩の絆の大切さを語ってきかせ、次期校長には東京桑野会を始めとして、各支部総会に必ず出席するよう引き継いで参りたいと存じます。

今後とも、母校の生徒諸君はもとより、校長もお引き立ていただき御支援を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍に想う

芳賀 雅美 (86期)

最初に東京桑野会の役員お二人が逝去されましたことをご報告し、深く哀悼の意を表します。昨年5月20日に会長代行の齊藤英彦さん(69期)、今年の1月17日に筆頭副会長の高松豊さん(74期)がお亡くなりになりました。コロナ感染症ではなかったものの、お二人を失ったことは私にとっても当会にとっても大打撃な出来事でした。ご遺族の皆さまには、謹んでお悔やみを申し上げます。合掌。

当会のかじ取りはもう次の時代へと引き継がれました。3桁期の役員を選出し、実務を移行すべく、上石幹事長とも相談しているところです。コロナ禍でこの1年は無為に過ごしてしまいました。会の行事は全て中止され、同好会や個別の懇親会も実施されませんでした。何かできることはなかったのかと自問しましたが、回答がないまま現在に至っています。役員・幹事を代表しまして、私たちの無力さをお許し願いたく申し上げます。

最初に日本で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の患者が発見されたのは、昨年1月初めのこと、中国・武漢から帰国した神奈川県男性でした。そして海外渡航歴のないヒトからヒトへの感染例も昨年1月中旬には確認されました。この60歳代の男性は観光バスの運転手で、武漢からのツアー観光客と接触があったということです。同乗していたツアーガイドの女性も後

に感染が確認されました。東京の屋形船集団感染とも併せ、中国・武漢がウイルスの発生源としての認知が定着しました。その後この未知のウイルスは猛威を振るい、全世界を恐怖に貶めたことは周知のことです。過去を紐解いてみると、歴史として思い浮かぶのは14世紀の欧州で発生したペストがありました。世界中で大流行し5千万人もの命を失ったと言います。今でこそネズミを媒介とするペスト菌が原因と分かりますが、当時は正体不明の『黒死病』として恐れられたわけです。近年でも約100年前に『スペイン風邪』という、今でこそA型インフルエンザウイルスの感染症と分かりますが、これも世界に流行して多くの命を奪っていきました。日本でも40万人が亡くなったと聞いています。人類は誕生してから数百万年が経過しましたが、常に病原体である菌やウイルス感染症との戦いでした。進化論で言えば、これらに打ち勝った免疫力のある種が生き残ってきたと言えます。

とは言え知恵も勇気もある21世紀の現代人は、これらの病原体の発生を予測し、防衛策も講じてきました。不衛生な環境を廃し、ヒトへ感染させる中間宿主を見つけて駆除する一方で、ヒトからヒトへの感染を防止するための手段や道具を発明し、治療薬やワクチンを開発しました。しかしながら未知の病原体は次から次へと発生し、変異しながら適応すべく進化を続けています。まるで高度な知識を持ったエイリアンのように、人類をあざ笑うがごとく襲ってきます。ここで現人類は滅びる訳にはいかず、知恵を絞って立ち

向かわなければなりません。

しかしながらわが国の対応はいかばかりか、頼りない感を持つのは私だけでしょうか。過去流行した、2003年SARSや2009年新型インフルエンザのパンデミックの教訓は全く活かされず、日本政府は何をやっていたのか。世界規模の未知感染症拡大は、当然予測されていたのにも関わらず後手後手で、初期の対応はアジアの諸国と比較しても遅れを取ってしまいました。経済を優先した米国も然り、国民個人の衛生管理意識の差が日本との明暗を分けたに過ぎません。会報が届くころには決定しているでしょうが、東京オリンピック・パラリンピックのこの夏の開催は絶望的な状況です。欧米ではワクチンの一般接種が始まりましたが、急ごしらえの特効薬となるのか不明点も多い状況です。今後日本でも接種が始まりますが、この騒ぎが終息するには素人目に見てもあと2~3年はかかるでしょう。わが東京桑野会の会員諸兄には年配者が多く、重症化リスクが高いため、まだまだ我慢の日々を過ごしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が終息する時期は必ず来ますが、ロックダウンや自粛生活により引き起こされた経済活動の減速と破綻については、今後解決していかなければなりません。世界において社会全体の再構築をどのようにすべきか、国際的な大課題が残ります。河北新報の1月の「時評」欄にヒントとなる論説が掲載されており、その一部を引用します。(引用)『(前略)この1年で社会情勢は一変した。この1年を消去して、再び1年前に時間を戻してそこから始めたくなるのかもしれない。(中略)だがそれではこの1年の「コロナ騒動」とは何だったのか、という思いがしてくる。「コロナ」は、われわれに、自然と人間の関係、環境と人間のあり方を根底から考えなおすという課題を与えたのではなかったろうか。(中略)ウイルスは、地球上の生命体の誕生と共にあって、(中略)言い換えれば、人は常にウイルスと共存してきた。この共存のバランスが崩れると人間の身体もダメージを受ける。(中略)「コロナ後」は、経済の拡張によって欲望を満たすというより、人が



挿絵：高松ゆたか (74期)

自らの心身の養生に対して強い関心を払い、自らの生命を健康的なものに維持する時代になるべきであろう。』

(引用はここまで)

コロナに打ち克つ。人類には明るい未来がある。希望を信じて一致団結しようではないか。

91期生徒会合宿と COVID-19

村木 修 (91期)

まず自己紹介をします。私は91期卒業です。安積高校在学中は生徒会会長を務め(やらされ)ました。現在は、福島県北部の国見町にある公立藤田総合病院で泌尿器科医として勤務しております。東北新幹線や東北自動車道を仙台方面に向かうと、国見町に入ったところで右手(東側)に公立藤田病院が見えます。当院は免震構造であり、2011年の東日本大震災でも、近隣の医療機関が大きな被害を受ける中、棚からの落下物がひとつも無く完全に無傷でした。ちなみに、91期、渡辺智君も外科医として一緒に勤務しています。彼の実家は知る人ぞ知る、郡山駅前アーケードにあったワタナベスポーツです。

生徒会の話に戻りますが、2001年3月25日(日)安積高校甲子園初出場に際して、甲子園球場での応援のため、91期生徒会関係者が高校卒業後23年ぶりに集合しました。それ以来毎年8名が1泊2日で、温泉や名所旧跡巡りをして旧交を温めています。これを我々は、91期生徒会合宿と称しています。合宿を始めてから今年で丁度21年が経過します。還暦を迎え

た2020年は初の海外合宿を、家族(妻など?)同伴にて台湾で行うことに決定し宿泊先のホテルも決めていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により断念せざるを得ませんでした。気が付いたらもう1年が過ぎるところです。

自粛期間も長期にわたり、世の中に閉塞感が漂っている年末に、本誌編集委員かつ、91期生徒会合宿メンバーである渡部良朋君から、「新型コロナ関連で寄稿せよ」との厳命がありました。ということで、感染症やウイルスは全くの門外漢ではありますが、新型コロナウイルス感染症について少し述べてみたいと思います。

ご存じのように新型コロナウイルス感染症はCOVID-19と称され、原因ウイルスSars-CoV-2の感染により発症した感染症のことです。COVID-19は、人-人の接触によって感染するため、人間同士の接触を避けることが感染予防の第一歩です。我々の大好きな「飲酒を伴った会食」は厳禁です。そのおかげで在宅勤務・テレワーク・WEB会議(講演・授業)などが浸透したとも言えます。その結果、家族間のパワーバランスに変化が生じた家庭も多いのではないかと推測します。COVID-19に対して、現在の人類は全く適応しておりません。しかも重症化から死に至るリスクもあります。まずはCOVID-19を予防しなくてはなりません。予防のためには、マスク着用・手洗い・手指消毒は必須事項です。更には、人-人の接触を避ける、いわゆる「3密」を避けることが求められます。私は更に「1密」を加えたいと思います。3密は皆さんご存じの通り①密閉、②密集、③密接のことです。4つ目の密は何かというと④密会であ

ります。密会の定義は、皆様が瞬間的に脳裏に浮かんだ情景でよろしいかと思しますので詳細は省きます。安全標語風に言えば、「うつつちゃう 秘密の密会 蜜の味」というところでしょうか。くれぐれも注意が必要です。皆さん4密を避けるように心がけて下さい。

さて、このような自粛が必要な世の中がいつまで続くのかという点についてはどうでしょうか。2021年2月に、日本でもようやくワクチン接種が始まりました。後輩のウイルス学者によると、人口の約6~7割がワクチン接種を完了すれば、COVID-19の流行はかなり下火になり、私達の行動制限も緩和されるであろうとのことです。しかし注意しなくてはならない点は、ワクチンの接種を受けたからと言って、感染が予防できるわけではなく、ワクチンは重症化を抑えるのが第一の目的であるということです。感染予防は引き続き重要です。Sars-CoV-2が普通の風邪ウイルスになるには、まだまだ数年~10年程度の年月が必要とのことです。

我々人類の、賢明かつ懸命な我慢と医学の進歩により、一刻も早くコロナ前の世界を取り戻したいものです。そして、お酒を飲んで会話し、我が91期生徒会合宿も再開できる世の中が早く来ることを切に願っております。それまで、皆で感染を予防し、他人へ感染させない様に気を付けて生きていきましょう。将来、二度・三度と、必ず新たな感染症が出現してくるはずですが。その際には、「マスク着用・手洗い・手指消毒・避けよう4密」を思い出してください。

世の中が落ち着いたら、是非東京桑野会の会合に参加させて頂きたいと

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

思います。

追加のお話をします。2021年2月13日(土)に、91期生徒会Zoom合宿(通称リモート飲み会)を開催しました。久しぶりに8人全員がモニターに集合しお酒を飲みながら楽しい1時間半を過ごしました。さて寝ようとした、午後11時8分、福島県沖を震源とする震度6強の地震が発生しました。すぐに、病院へ駆けつけたのは言うまでもありません(私は飲んでいましたので、妻に送ってもらいました)。病院機能は全く問題ありませんでしたが、朝まで救急車が絶え間なく患者さんを搬送してきました。2011年の余震とのことです。今後も地震には注意が必要です。この時、地震・豪雨・感染症などの複合災害を念頭に対応していかなければならないことを再認識しました。

(個人名の記載については各人に了解を得ております)

美空ひばりと 東京桑野会

櫻井 淳 (78期)

今から約32年前、1989年6月24日の夜、そこは箱根の某会社の保養所、その日はそれほど他に客も少なく、我々4人は箱根の湿生花園を散策の後、東京桑野会の事を話し合おうと当時の幹事長齋藤さんに集められ、その割には深刻な話もなく、かと言ってこれから東京桑野会を「どうスッペ」とゆるゆると話をしていた気がする。



湯上りにビールと食事、部屋に持ち込んだお酒をつまみでゆるゆると飲みながら、本題に入ろうとし、ニュースの時間にテレビをつけていると。衝撃のニュース!「美空ひばり」が今日未明に亡くなった、そして思い出の曲が次々に流れてくる。

皆さん「美空ひばり」と自分について語りだす。齋藤英彦さん(69期)はひばりと同学年。横浜の検事研修時代や様々な人生の節目で、ひばりの歌を語り出す。そして水口禎さん(67期)は同世代の物語を語り出す。そして最後に語りながら踊り出したのが高松豊さん(74期)、ひばりに対する思いは人一倍強かった。私(78期)は確か学生時代に岡林信康が歌う「りんご追分」を聞いてひばりに対する評価を一変させたことを話したような気がする。東京桑野会の会報の事や事務局のこと等を話すことも忘れ去り、よく飲み、語り、歌い、夜中まで、美空ひばりの追悼集会になってしまった。

この4人の中でまだ生き残っているのが私だけなのは本当に寂しい。水口さんは同じ建築を志す先輩として会報編集と一緒にやり、あの安積本館の建物の建築時期があのエッフェル塔と同時期であることや、塔の高さと本館の長さが同じであるなど、東工大の建築出身らしく数字に強い興味を教えてくれた。東京桑野会の原稿ではイタリアのペルージャでの短期語学留学時の一文を投稿し、私の修士論文・設計と同じ都市であった奇遇を感じる先輩であり、水口さんの「RIA」事務所時代の仲間とも共通の知り合いも多く、一回り近く離れた後輩に楽

しく接していただいた。

齋藤さんについては、この年に確か東京桑野会の事務局を神田の星会計事務所から新宿の齋藤法律事務所に移転し、そんなこともあって、箱根合宿も齋藤さんが言い出した。私が渋谷の設計事務所時代に、公私に法律相談を含めてお世話になった。東京桑野会の幹事長として長きにわたり多く貢献された。特に安中世代から安高世代への橋渡しを果たした役割は大きかった。あのニコニコしながら温和で東京桑野会のことを思う気持ちは人一倍強かった。昨年残念ながら亡くなられたが、一昨年に、丹治則男(81)さんのしのぶ会をやろうと齋藤さんと言って実現しないのが今でも悔いが残っている。

そして今年に入って、なんと高松さんの訃報に接した。私たちは高松さんを「画伯」と呼んでいた。会報の挿絵はいつも「画伯」が選び、安積の美術の先生と連絡を取って進めてくれた。また「画伯」の安積の同級生の鳥影さんとはまちづくりや建築の関係で、私は親しくしており、鳥影さんから彼の設計の建築物への壁画等の作品も聞かされており、新聞店と保護司の仕事と共にライフワークとしての絵を描くことを行い、毎年グループ展もたまに拝見していた。安積の恩師水田壮介先生(私にとっても恩師)の挿絵を会報に挙掲載されたのは、「画伯」にしかできない功績であった。

齋藤さんの事務所で会報の編集の後、新宿の蕎麦屋で、よくノミニケーションをしたが、時々あの箱根の「ひばりをしのぶ会」は語り草になった。67期から78期の一回りも違う郡山から出てきた大人が、高校時代に一緒になったこともない「東京桑野会」と言うくりだけで、分野も違う仲間としてこの都会で生きてこられたことは不思議であり、そして感謝しかない。

卒業から21年、 若手会発足から11年

中館 透 (113期)

113期(2000年3月卒業)の中館(なかつて)と申します。タイトルを見て「なぜ1年多いの?」と感じた方もい

らっしゃると思います。実はこの文章、
昨年の会報へ寄稿する予定だったもの
です。締め切りを過ぎてしまって1年
延期となりましたが、お読みいただ
ければ幸いです。

さて、早いもので卒業から21年が
経ちました。私の代はまだ男子校で、
入学から卒業まで1学年400人、全
校生徒約1,200人が真っ黒の学ラン
を着て毎日過ごしていました。1時間
目が終わった後の休み時間に弁当を
食べ(いわゆる早弁)、昼休みには近
くのお弁当屋さんで唐揚げ弁当を
食べたことも今となってはいい思い出
です。また、入学直後の応援歌練習
で先輩方から叩き込まれたことも
あり、校歌だけは今でも3番まで
歌えます。(音程が合っているかは
また別の話ですが・・・)

高校卒業後は大学生活を謳歌し、
社会人としての基礎を固めることで
精一杯だったのですが、卒業から
10年経った2010年に初めて東京
桑野会の総会に出席しました。10
年ぶりに同期に会い、昔話に花が
咲いたのですが、同時に初参加の
視点からは違和感を覚えるところ
もありました。私と同じような
感想を持った方が近い代の卒業生

何人か居て、SNS上でそれぞれの
思いを言い合ううちに「実際に
会って意見交換をしよう」と私が
提案・場をセッティングして、有
楽町の居酒屋で終まで語ったのが
若手会の始まりです。

若手会というのは100期以降の
卒業生を対象とした集まりなの
ですが、10年も経つとみんな(?)
いい歳になってきます。113期
の私が2021年で40歳なのので
100期の先輩は・・・ご想像に
お任せします(笑)それぞれの
生活をしながらの集まりです
ので、何かを成し遂げようとする
とどうしても息の長い活動にな
ってしまいますが、10年も活動
していると多少なりとも成果は
ありました。一昨年末まで開催
されていた東京桑野会の総会
の会費が「社会人1万円」、「
学生3千円」の2段階だった
ところに「30歳までの社会人
6千円」という段階を設けた
のは若手会からの提言で実現
したものです。

また、今は不定期になってしま
いましたが、懇親会を開くと毎
回誰かから新メンバーが居て、
みんなで暖かく迎えます。社会
人になると交友関係が限定さ
れがちですが、同じ高校を卒業

しても歩んでいる人生が自分と
全く異なる人の話というのは
いつ聞いても新鮮で自分への
刺激にもなりますよ。

若手会の発足から10年以上経過
し、次の10年を考えたときに
「いつまでも若手ではいられ
ないな」と思うことがあります。
120期台の参加者が増えて
きて、いずれ130期台の参加
者も出てくるでしょう。東京
桑野会自体が高齢化している
という印象は受けていて、や
がてやって来る世代交代の
準備をしなければならない
と思っています。そうしたら
自分たち110期台や100期
台の先輩方でいわゆる「中年
会」を立ち上げるかも。それ
もまた面白いかもしれません。

ここまでが昨年書いた文章
(年数は一部修正)ですが、
新型コロナウイルスの影響を
まだまだ甘く見ていたな、と
自省させられます。この1年
でコミュニケーションの取り
方がすっかり変わってしま
いました。仕事柄、Web会議
など非接触型のコミュニケー
ションツールにはまだまだ未
熟な部分が多いので、置いて
けぼりにならないようにし
ないといけません。

最後に、Facebookに若手
会のペー



ウイン調剤薬局

(URL <http://www.winpharma.jp>)

ウインファーマグループ 代表 藤田勝久(82期)

～人と人とのつながりを愛します～

《地域に密着した薬局から安心安全なおくすり使用へ》

神奈川県・東京都・埼玉県・千葉県・群馬県・長崎県



Medicure
WinOHANA group

オハナ薬局 ウイン・未来薬局

(URL <http://www.win-ohana.jp>)

ウイン-オハナグループ 代表 藤田勝成

～いつも身近なあなたのかかりつけ薬剤師に～

福島県・栃木県・群馬県・茨城県

ジがありますのでご紹介させていただきます。名ばかり会長の私がかんな状態なので停滞気味ですが、「こんなやり方もあるんじゃないですか」というアイデアは大歓迎です。みなさんのご参加、

お待ちしております！

Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/groups/asaka.kuwano.y/>

QRコード：



安積歴史博物館便り

安積歴史博物館業務執行理事
橋本 文典 (84期)

東京桑野会の皆さまにおかれましては、未だに終わりが見えない新型コロナウイルス対策に、それぞれのお立場でご奮闘されていることと敬意を申し上げます。

当館におきましても、令和二年は手探りで運営でした。年度早々の「自粛要請」により、四月末から五月末までの一か月間を休館としました。またこの間に予定されていたコンサートや各種団体の見学、旅行会社によるツアー等は全て中止となってしまいまし

た。六月以降も人の流れが回復することとはなく、現在に至っております。

そのような状況でしたが、移動の制限が解除された後、「朝の連続ドラマを見たので来てみた。」という来館者言葉も有りました。コロナ渦中で撮影が進まず、再放送となり、結果として当館のシーンが二度も放送されることになりましたが、ご覧にいただけでしょうか。

さらに、年末までの間に再開されたツアーが複数件ありました。「福島の洋館めぐり」というタイトルで、当館や天鏡閣、そして県北の洋館を訪ねるテレビ東京の旅番組「ハーフタイムツアーズ」に紹介されました。

また福島中央テレビ開局五十周年記念番組にも、背景として映し出され、

桑野会会員の皆様は一目で場所が特定できると思います。

今後の予定としては、安積疏水等の日本遺産関係について、文化庁のホームページに掲載するための撮影があります。また、引き続き「朝河貫一博士の偉業を伝えるビデオ作成の撮影も予定されています。各種撮影に関しては今後も照会がありますので、可能な限り依頼に応じていく予定です。

見学や研修の来館者数は未だ回復しておりませんが、SNS等で発信したことが功を奏したのでしょうか、「コスプレ」の撮影に来館される方が増えました。衣装や小道具に工夫を凝らし、講堂や階段、バルコニーで撮影されています。さらにそれらの画像を見て来館される方もいらっしゃるようです。各種

不法電波は
やめましょう！

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう！

株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地1
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

朝河貫一顕彰協会便り
朝河貫一博士顕彰協会の
2020年活動
矢吹 晋 (70期)

朝河貫一博士顕彰協会の2020年活動をご報告したい。1月11日午後、早稲田大学において「朝河史学からたどる国民性と和解」シンポジウムが顕彰協会共催で開かれた。浅野豊美教授(政治経済学術院)司会のもとに矢吹晋が「天皇制と朝河貫一、国際比較に耐える日本史像を求めて」を、甚野尚志教授(文学学術院)が「比較封建制から国民性の研究へ、朝河貫一の歴史研究の軌跡」を講演し、活発な質疑応答が行われた。矢吹は2021年3月に福岡集広舎から出版予定の『天皇制と日本史、朝河貫一に学ぶ』の概要を語った。甚野は福島県立図書館所蔵のグレッチェン・ウォレン女史と朝河の往復書簡を解説しつつ、朝河晩年の朝河史学の到達点を説いた。この講演会企画と連動して、早大歴史歴史館では「朝河没後70年記念展」が開催され、初公開の正澄掛け軸等が展示され、観衆に深い印象を与えた。

2月22日には会津若松で山川健次郎顕彰会「新春の集い」が開かれ、糠沢事務局長が出席した。2月29日には二本松市教育委員会主催、顕彰協会共催で朝河貫一の精神に学びつつ、「国民性と和解」問題に取り組んでいる早大国際和解学研究所所長浅野豊美教授の

朝河史学からたどる国民性と和解

朝河貫一(1873-1947)は、歴史学、政治学、国際関係論の分野で活躍した。その研究は、国民性と和解の観点から、現代の国際関係に重要な示唆を与えている。本シンポジウムでは、朝河貫一の歴史研究の軌跡をたどり、国民性と和解の観点から、現代の国際関係を考察する。

2020年1月11日(土) 午後1:00-午後3:00
早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館909教室
参加費 無料

司会) 浅野豊美(早稲田大学政治経済学術院教授)
講演) 矢吹晋(横浜国立大学名誉教授・朝河貫一顕彰協会代表理事)
天皇制と朝河貫一国際比較に耐える日本史像を求めて) 甚野尚志(早稲田大学文学学術院教授)
比較封建制から国民性の研究へ朝河貫一の歴史研究の軌跡)

メディアで紹介され、さらにそこからまた広がりを見せていくという意味では、多くの方々に「旧福島県尋常中学校本館(安積歴史博物館)」が認識されることは大変喜ばしい限りです。

最後に財団の運営についてですが、財源的には苦慮している一方、令和二年度は郡山市内を中心に、企業様へ寄附のお願いをしたところ、多方面からご支援をいただきました。重要文化財の建物を母校に持つ学校は多くはありません。先輩からの贈り物を後輩に手渡すためにも東京桑野会の皆様のお力添えを切に願います。

どうぞ皆さまご自愛ください。

二月一三日の地震では、壁の崩落やひび割れ、窓ガラスの破損等もありました。重ね重ねのお願いで恐縮ですが、今後の修復に際しても何卒ご支援をお願いいたします。

コロナ禍に思う母校
～安積歴史博物館に思いを
寄せて～

安孫子 哲教 (115期)

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、首都圏では2度目の緊急事態宣言が出され、気がつけば、実家に帰省ができなくなり、1年以上が経つ。帰省がなかなかできなくなった今、またステイホームが多くなっている中、ふと地元思いを馳せることが多くなった。

安積を卒業して早19年が経過しようとしているが、卒業をして以来あまり安歴博を訪れていなかったのだが、過去の手帳を整理していて、ここ数年安歴博を複数回訪れていたことをふと思い出した。何れも冬という寒い時期だったため、館内は非常に寒かったが、校舎内に溢れる凛とした空気、踏みしめる度に感じる木造建築の重厚感が忘れられない。

ここで、安歴博の中には、卒業生に関する資料が置いてある教室があることをご存じだろうか? 私は全く気付かなかったのだが、卒業生の卒業写真、安積野(卒業文集のようなもの)など年度別に今までの安高の卒業生の歴史が保存されているのである。

かつての学び舎にこのような場所が

あることは、今でも安積との絆を感じることができる、卒業生にとってはかけがえのない場所だと思う。僥越ながら、ご存じでない方がいらっしゃれば、是非一度足を運んでいただきたい。きっと懐かしい気持ちに浸れることは間違いない。

卒業生にとって忘れることができない場所といえば、講堂だと思う。現役生であった頃は、講堂入り口から講堂全体を見渡すことは一切なかったが、今この年になって改めて入り口から眺めると、とても広い場所であることが分かる。また、講堂のステージに立ってみると、その広さを身を以て体感することができる。

講堂といえば、学年集会や講演会などが行われた記憶があるが、その中でも印象に残っているのが、入学早々行われた応援歌練習のフィナーレである。安積といえば、毎年恒例の応援歌練習であるが、私も入学早々放課後に行われる応援歌練習は本当に肝を冷やしたものであった。そんな応援歌練習も終わりに近づき、最後の応援歌練習が講堂で行われた。応援団長が、講堂のステージにおいて、新入生に対してかけた「今日までの応援歌練習によく耐えた。お前達を安高生として認める。」との言葉は未だに鮮明に覚えている。あの時の団長の姿は、格好よく、男ながら惚れ惚れとするものがあった。恐怖(?)の応援団練習が終わってホッとするとともに、なぜか寂しくもあり、一方では「先輩に認められた」と嬉しい気持ちになったのは、新入生さながらの初々しい思い出である。このように今でも講堂に足を運ぶと、そんな昔の思い出を思い出すのである。

日々の生活に追われ、安積のことを思い出す機会は少なくなってきているが、ここ最近ふと地元のことを思うと、必ず安積のことを思い出す。そのような中で安積とのつながりを再認識することができる場が東京桑野会であると思う。去年の東京桑野会は、残念ながら中止となってしまったが、今年は開催することが予定されており、嬉しく思う。一日でも早くコロナが落ち着き、今まで通りに先輩の方々や後輩達とお会いできる時が来ることを切に願うばかりである。

講演会が計画されていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止された。8月10日甚野尚志教授の朝河貫一の足跡を紹介する講演会が県立図書館で感染予防対策を踏まえて盛況里に行われた（福島民報に紹介記事あり）。

顕彰協会総会は6月6日郡山市安積歴史博物館で開かれ、事業報告、決算報告、2020年予算案を決定した。しかしながら、コロナ禍が終息の見通しが立たず、この年の活動は大きな制約を受けて、ほとんど「開店休業」に近い状態に陥った。

とはいえ、朝河貫一顕彰事業の灯火を消すわけにはいかないの、これを守り続けることをご高齢の古川清会長以下、誓い合っている。なお2019～2020年に顕彰協会役員陣のうち、名誉顧問ドナルド・キーン氏（コロンビア大名誉教授）、同名誉顧問糠沢和夫氏（元経団連専務理事、元ハンガリー大使）が逝去された。

ホームページの運用状況報告

—創設18年目の活動とアクセス状況—

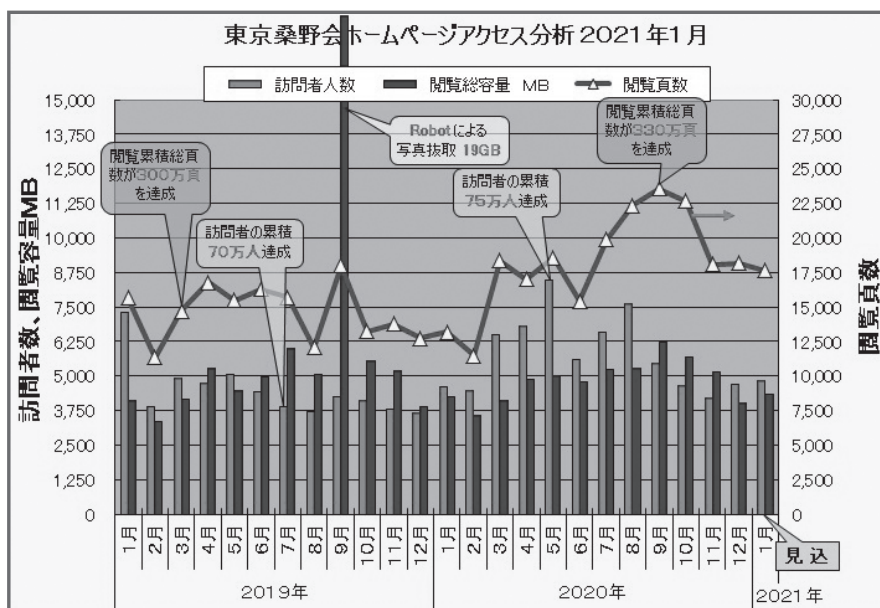
<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀 雅美（86期）

（東京桑野会ホームページ委員長）

昨年はコロナ災厄に揺れ動いた1年だった。全世界を恐怖に貶めた驚異の新型ウイルスは、人類の英知をあざ笑い進化しながら何度も戦いを挑んできた。最優先にてワクチンが開発され接種が始まったが、この騒ぎが収まるまであと2～3年はかかるであろう。私事ではあるが、非常勤の仕事も退いて完全年金生活者となったため、ほぼ自宅での自粛生活となった。定額給付金をいただいたので、16年間も愛用したデスクトップPCを最新型に買い替えた。今どきのPCはこんなにもサクサクと動くのかと、毎日感心している次第である。

コロナ禍で東京桑野会の活動は大きく制限され、行事は全て中止となった。またホームページの記事を収集するための取材活動もできなくなり、更新作業も停止した状態である。幸いに



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

もサーバー障害は全く発生せず、悪意のある第三者のハッキングもなく平穩に過ごせたのは救いであった。報告するような内容ではないが、恒例によりこの1年間の運用状況を下記しておく。

18年目についての改訂や追加コンテンツについては以下の通り。

(1) 安積OBクイズについては2年半ぶりに、3名のニューフェイスを追加した。会員投稿のブログ形式記事の追加改訂については、更新できる記事の入手ができなかったため実施されなかった。会員の皆様からの投稿や情報提供を切に望んでいる。

(2) 例年通りではあるが、会長の新年度ご挨拶、役員・幹事名簿の更新を実施した。総会・懇親会の中止連絡、諸行事の中止連絡を掲載した。

(3) たいへん残念なお知らせとなったが、昨年5月に会長代行の齊藤英彦さん（69期）が、今年の1月に筆頭副会長の高松豊さん（74期）が逝去された。ニュース欄と会員動向掲示板の2ヶ所に報告した。当会にとって大きな損失であり、お二方の業績を称え深く哀悼の意を表す。合掌。

ホームページ掲載記事の入手については、今後も一層の努力をしていきたい。

次いで当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。

(1) 過去2年間分についてグラフで示

しておく（別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値）。

(2) グランドオープン以来、昨年5月に訪問者総数が75万人に達し、同年9月には閲覧総頁数が330万ページビューに達した。更新が少ないまま閲覧数は、堅調に推移している。

(3) この1年間の平均で、月間訪問者5949人、閲覧総頁数19239頁となっているが、訪問者数で前年比+38.4%の大幅増、閲覧総頁数でも前年比+33.1%の大幅増となった。

これは前年度の数値が、訪問者数、閲覧総頁数ともに近年ワースト1もしくはそれに匹敵していたためであり、見込値とは言え昨年度は訪問者数、閲覧総頁数共に近年の上位に入る良い数値であった。月間平均で閲覧総頁数2万ページビューを越えたいと個人的には考えていたが、かなり近い数値になっている。引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りて改めてお願いをしたい。情報がなければ内容の更新ができず、閲覧を求めるにはホームページの鮮度管理が大切であることは言うまでもない。

安積OBクイズに チャレンジしよう

東京桑野会広報部編

東京桑野会のホームページに、『安積OBクイズ』なるコンテンツがあるのをご存じでしょうか。安高生なら誰でも知っているようなサービス問題から、かなりマニアックな難問まで現状で44問あります。当初は、お遊びのつもりで増やし93問までアップしましたが、政治家を掲載すれば選挙運動かと非難され、学生さんを掲載すれば削除を求められ、結局ご本人全員の承諾を得ることが難しくなっていました。InstagramやフェイスブックなどのSNSに、あるいはホームページに顔写真をご自分の手で掲載していても、当会のホームページへ転載は不可との強い意見が出され、個人情報保護法の適用が厳しくなってきたため2012年3月には一時閉鎖に追い込まれました。その後対象のOBが物故者であれば法の適用除外という示唆を受け、もう一度物故者限定で再開し現在に至っています。少し言い訳っぽいですが、偉大な業績を遺した大先輩方に敬意を表し、忘却することを防止するという大義名分を掲げて臨んでいます。

最近のネットの世界では、グーグルのような検索ロボットや悪意を持ったスパイダーロボットが暗躍し、テキスト文字を読み取って情報を収集することが日常となりました。個人情報は集めればお金になるようで、特定の情報を収集するサーチロボットが横行しています。そこで当会のOBクイズでは、個人情報をテキスト文字では表示しないということにしています。画像です。

人間の目では読めてもロボットには読めません。クイズ本文と回答は画像で掲示しました。ところが最新のニュースによれば、AIが学習し画像から文字に変換することが可能になったと言われています。日本の古文書を学者が読み取るよりも何倍も早く、AIが読み取ることが可能になったそうです。でもネットでのサーチロボットに適用されたとは聞いておらず、多分AIと言えども画像から文字を読み取る技術はまだ速度も遅く検索には向いていないと推定されます。いずれ技術的には実行可能となってくるかもしれません。

技術的な話はさておき、皆さん復活した『安積OBクイズ』にチャレンジしてはいかがでしょうか。2005年1月のクイズ開始時からカウンターを取り付けています。あなたは、何人目の挑戦者でしょうか。お遊びですので、気軽に何度でも挑戦してみてください。また、クイズ対象のOBにつきまして情報をお持ちの方は、ぜひ事務局までご連絡を下さい。顔写真があればなお良いと思います。よろしくお願います。



追悼 斉藤英彦先生

渡部 良朋 (91期)

上石・東京桑野会幹事長から、斉藤英彦会長代行(69期)の訃報が届いたのは、令和2年5月末でした。斉藤会長代行のことは、小生は斉藤先生とお呼びいたしておりました。本追悼の中でも、斉藤先生とお呼びいたします。病氣療養中とお聞きしていましたが、逝去されるしばらく前に病院でたまたま出くわした高松豊氏(74期)によると、お二人で元気なやりとりをされたとのことでした。しかしその後、5月20日に自宅にて安らかに息を引き取られたとのことでした。

小生が初めて斉藤先生とお会いしたのは、母校が21世紀枠で甲子園に初出場した2001年でした。勤務先に安積の先輩がいらっしやり、その方から東京桑野会に誘われておりましたが、なかなか参加には至りませんでした。しかし、母校野球部の甲子園出場で一気に母校への想いがあふれ、参加することといたしました。

そのうち、東京桑野会のホームページを作るぞという話で、当時幹事長であった斉藤先生や広報部長の櫻井淳氏(78期)、HP委員会委員長となる芳賀雅美氏(86期)らとHPのコンテンツ作成に係るようになりました。ついで、東京桑野会報の編集にも係るようになり、20年が過ぎました。この20年で、斉藤先生とのご縁の強さ、そして大変にお世話になったことを感じております。

なぜ先生とお呼びしているか、それは弁護士や大学教官等として人に教えるという立場でいらっしやったということもありますが、私にとっては人生

村山 俊司 (61期)

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

東京桑野会副会長
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール：chobi@hyper.ocn.ne.jp

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

の指導者とも思える人格・品格を持
られていたからです。先生には、いろ
いろなことを教わりました。小生が日本
大学大学院で非常勤講師をしていた時
のことですが、日大の教官名簿（電話
帳位に分厚い）をめくっていたら、最
初のページに理事としての斉藤先生の
名前がありました。そのことを先生に
言うと、小生も日大の教壇に立ってい
ることをことのほか喜んで下さって
いました。また、小生の趣味のひとつ
であるDeepな街歩きをしている際、「吉
展ちゃん事件」の被害者供養塔をた
また見つけた話をしたときに、先生が
若き検事時代にこれを担当したことを
教えて下さいました。犯人（福島県石
川郡出身）の悲惨な生い立ち、獄中
での人間性回復のプロセス、等の語る
先生の視点は、司法に係る人間はこ
うあるべきと思わせました。小生の
部下がトラブルに巻き込まれ、先生に
そのことについて相談したこともあ
ります。先生は、親身になって相談に
のって下

さいました。（なお、部下は自身の過
失はないことが証明されました）。

先生が幹事長を現・上石幹事長にバ
トタッチしたのは、慧眼です。自身
の加齢も含め、運営の若返りを図られ
ました。でも、亡くられるのは早
すぎます。東京桑野会をもっと長く見
守って欲しかった。先生への想いは、
上石幹事長を中心に「コロナに克つ」
東京桑野会の運営を担ってゆくこと
で表したいと思います。斉藤先生、
ありがとうございました。謹んで深く
哀悼の意を表します。

追悼 斉藤英彦先生

増子 浩重 (92期)

安高を思い、また首都圏に住い
持つ安高出身者の世話役としてご
尽力された斎藤先生の訃報は残念
でなりません。生前のご指導に感
謝すると共に、



心より哀悼の意を表します。

私は、会津との市境である湖南町
の出身、勉強嫌いな私が安高に入
学できたのは熱心に指導頂いた
安高出身の先生との出会いがあ
ったからです。2003年に開催し
た92期同窓会の連絡用として
立ち上げたHPがきっかけとなり
HP委員会に名を連ねることとな
りましたが、当時は海外出張が多
く、殆どHP委員会の活動をする
ことのない名ばかりの会員でし
た。2010年に営業職を離れるこ
とになり、少しはお手伝いので
きるかと思った矢先、今度は大
阪支店勤務を命ぜられ、距離の
遠さを言訳にその後も活動をサ
ボリ続けております。そんな訳
で斎藤先生とお会いしたのは数
えるくらいしかりませんが、物
腰が柔らかい中にも芯の強い方
だと言う印象を持っております。

また、地位や権力を求める人が
多い中、「罪を憎んで人を憎まず」
と言う法曹界にあるべき人物像
そのものだったと言うことも聞
き伝わっております。

私事ですが、昨年9月に定年を迎
え時間的な余裕ができてしまし
たが、田舎で一人暮らしをして
いる母が心配の種、昨今の状況
から帰省もままなりません。で
きる限りのことはして上げよう
と思っています。

HP委員会がかきかけで斎藤先生
と知り合えたわけですが、もし
先生が発起人にならなければ、
それも叶わぬこと。若い後輩や
女性にも親しまれるコンテンツ
作りなど、若輩の私にもできる
ことはあるはず。縁を頂いた委
員会の活動にも時間を割かなけ
ればと考えています。感恩戴徳
の意を表して追悼の言葉とさせ
て頂きます。

ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL:03-3501-0451
FAX:03-3501-0452
E-mail:shuitsuzuki@nifty.com
http://www.yamada-law.gr.jp

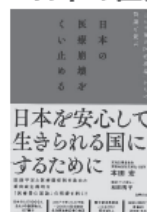
がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone : 090-1429-6127
E-mail : watanabe2021@ryu.bz

「日本の医療崩壊をくい止める」



泉町書房 2021年2月新刊

本田 宏
(86期)

NPO法人医療制度研究会副理事長
hondahiroshi@me.com
090-3205-9482

安積の仲間たち

芳賀 雅美 (86期)

(編集部注。本稿は東京桑野会No.42(昨年)の出版の特集:「安積の集まり」にあわせ準備したものです。原稿の充足により未掲載としたものです。内容が未掲載とするにはもったいなく、本No.43号に掲載することといたしました。)

私にとって真に友人たちと呼べるのは、大学の同級生や先輩・後輩たちでも、39年間精勤し延長で非常勤として4年間を務めた某石油会社の同僚たちでもない。確かに会社からは給与をいただき家族を養い安定した生活をしてきたことは事実であるが、いかんせん「宮仕え」の身であった。仕事を通じて至福の時間もあったが、家庭を十分に守ってきたのかと問われると後悔が残る。仕事には利害関係が発生する。予算もあれば成果も求められ、また意にそぐわぬ転勤命令を渋々受け、失敗すると叱責され責任を問われることもあった。それに比べて「安積の仲間たち」は心地よい時間を提供してくれる。なんでなんだろうといつも思う。

安積には昭和45年4月に入学し、3年間在籍した。理数科だったので3年間クラス替えがなく、何をしても五輪正芳先生の担任の下、皆一緒だった。勉学にスポーツに励んだかと思いきや、頑張っても成績は中の下。目立たない存在で、共同作業でやることはだいたい平均点。クラスの足を引っ張ることもたびたびあった。それでもクラスメートとの思い出は楽しいことばかり。

卒業後に初めてクラス会が開催され

たのは平成3年36歳の時、卒業時の年齢の2倍ということで地元在住の有志が幹事となって郡山市内で開催された。あいにく私は山口県にて勤務し、遠方でもあり仕事に忙殺を理由に欠席した。その後平成10年からは毎年クラス会が開催されるようになった。平成10年10月24日には東京上野の達人の店『林さんの龍虎殿』に20名が集まった。私は初参加だったが、「オメエ誰」と言われ容貌の変化に年齢を感じた記憶がある(笑)。これより昨年の令和元年まで22回のクラス会が開催されたのだが、欠席したのは平成11年と平成25年の2回だけで出席率は極めて高い(自慢)。

このクラス会は平成14年以降では毎年9月の第一土曜日と決められ、多少は幹事の都合で翌週になることもあったが、地元福島県と東京ないし首都圏の温泉旅館をいったりきたりの開催となった。クラスメートと共有する時間は楽しい。次の1年が待ち遠しいくらいだ。昨年令和元年9月は、石川町の母畑温泉『八幡屋』だった。卒業以来初めて会った同級生もいた。容貌もあまり変わらず、すぐに誰だか分かった。彼は私の隣に座り、みんなが順番に自己紹介と近況報告に立つたびに、「彼は誰?」と問うてきた。でも私のことは一目で分かったようだ。うれしい。早々と到着して温泉に浸かり、夕方からの宴会後も二次会カラオケ、幹事部屋での部屋飲みと深夜0時過ぎまで盛り上がる。もう高齢者の定義に入った年齢なのにタフだ。そう言えば前年の東京上野での会も、上野駅からJRに乗車した時間は午前0時を過ぎていたなあ〜。

今年令和2年9月の第一土曜日は、東京池之端の『水月ホテル鷗外荘』に決まったようだ。温泉もあり文豪・森

鷗外の旧邸があったところで、小説を執筆した建物や部屋と庭が保存され見学ができる。ホテルに宿泊の予定でもあり、午前0時過ぎにJRに乗って帰宅するという手間もないのがうれしい。永久幹事の、土屋繁之くん、味原隆くん、小橋主税くん、いつもありがとう。そしてお疲れ様です。

写真は平成30年9月に、東京上野の韻松亭で開催されたもの。若い女性が2人ほど写っているが理由をご勘弁願いたい。

【注釈】本稿は2019年12月に作成したものであり、コロナ禍以前の執筆による。東京池之端の『水月ホテル鷗外荘』は、第一回目の緊急事態宣言後に経営不振のため閉館となった。



◆読売新聞の朝刊コラム記事に登場した安積の卒業生

西田幸雄 (91期)

手前味噌で恐縮ですが、読売新聞の二面または解説面に、「顔」という表題のコラムが過去21年平均で年間220回ほど掲載されています。同欄は、業界を問わずその時々旬の話題を提供した人物に焦点を当てて、その方の実績や人となりについて紹介する囲み記

労働保険の特別加入

1人親方労災保険加入のご用命は!

労働保険事務組合
神奈川県S R経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177

<http://www.kanagawa-src.jp>

信愛病院

医学博士 渡辺 哲弥 (70期)

(練馬区東大泉7-14-15)

晴海パートナーズ法律事務所

弁護士 後藤 大 (107期)

マネージングパートナー

〒104-0045
東京都中央区築地2-15-19
ミレニアム築地6階

E-mail: gotodai@harumi-partners.jp
「晴海パートナーズ」で検索ください
TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

事です。他紙でも同様の趣旨で、例えば朝日新聞と毎日新聞では「ひと」の表題で掲載されています。

本年1月4日の「顔」欄では、2021年東京箱根間往復駅伝競走大会の最終10区で逆転優勝を果たした駒澤大学の八木弘明監督が紹介されています。同監督は会津工業高の卒業生ですが、本大会で選抜された20チーム中なんと4校の監督が福島県出身者でした。参考までに他の3人は、早稲田大の相楽豊監督が我々が安積OB（112期）、東洋大の酒井俊幸監督は学法石川、国土館大の添田正美監督は岩瀬農業の卒業生です。残念ながらこの3人が「顔」欄に掲載されたことはありませんが、読売新聞のデータベースによると、過去21年間（2000年1月～2020年12月）に同欄は4677回掲載され、検索条件に「福島県」を加えると60回分の記事に絞られました。

この60回・60人中6人の安積卒業生が紹介されました。同欄記事には安高卒の記載がなく、学歴確認のため、1. 既に認識済みの方か、2. 卒業生名簿記載有無、3. 桑野会会合等で面談有無、4. 他の記事や文献で学歴明記有無…の手順を踏まえて安高卒の裏付けを取りました。

同欄掲載の6人を掲載年月日・表題・氏名・卒業期を付して紹介すると、下記のとおりです。

2016/12/26 福島の酒造りを支える
鈴木賢二さん（93期）

2014/08/09 クリーニング業界の健全化を目指しNPOを設立した
鈴木和幸さん（92期）

2008/09/09 初のブラジル公演を行う
早大グリークラブ部長 丹治亮介さん（117期）

2006/05/19 第19回三島由紀夫賞に決まった
古川日出男さん（98期）
2001/07/18 第125回芥川賞を受賞した
玄侑（橋本）宗久さん（88期）
2000/09/30 世界医師会長に就任する
坪井栄孝さん（58期）

医師、作家、合唱部の部長、NPOの設立者、日本酒製造のマニュアル作成者と、多様な分野で活躍されたことが紹介されています。地元紙の福島民報や福島民友新聞ならば、安高卒の活躍が掲載されるのは珍しくありませんが、全国紙の、それも地域版ではなく二面や解説面の囲み記事に一介の地方高校卒業生の活躍が掲載されることは稀有なことと言えます。令和2年度学校基本調査（文科省）によれば、全国の高等学校数は4,874校ですから、仮に全校の卒業生を一人ずつ均等に同欄で紹介するとしたら、22年間に1人掲載されるかどうかというレベルになります。

よって、21年間に6人も掲載された安高卒のポテンシャルの高さが垣間見える話だと思います。

読売新聞には、「顔」の他に「時代の証言者」という連載コラムもあります。日本経済新聞で最終頁に連載されている「私の履歴書」に匹敵する連載記事です。人々がある時代を振り返った時、記憶の中によみがえってくるような活躍をした方々に記者がインタビューし、その人の半生を聞き書きスタイルでつづった記事です。「私の履歴書」が主として政財界の大物の半生が描かれているのに対し、「時代の証言者」は取材対象分野がより広範囲です。文化、芸能、学術を含む分野で人選し、語り手本人が活躍した時代を掘り下げて、当時の世相や時代をとらえ

た社会史を描きだしています。取材対象者が語った内容についての事実確認には多くの時間を費やしており、記者歴30年超のベテランが一つのシリーズ25回分をまとめるのに取材開始から掲載までに数か月かかっています。よって、2003年4月から2020年12月までの17年9か月間に掲載されたのはたったの180人ほど。年間平均10人掲載で、前述の高等学校数で算出したら487年に1人の割合です。そんな気が遠くなるような高倍率の記事でも安積の卒業生が紹介されました。

昨年2020/4/14～同年/5/21まで26回にわたり連載され、「病院で死ぬということ」の著書で有名な医師の山崎章郎さん（79期）です。「終末期を支える」の表題で、あるべき終末期ケアの先駆者として紹介されています。東京桑野会総会でも講演を依頼したことがあるOBなので、ご記憶の方も多いと思います。当該26回分のバックナンバーは、読売新聞の定期購読者は、読売新聞電子版YOMIURI ONLINEで閲覧することができます。

前述の「顔」掲載の6人は、直近の記事でも4年以上前掲載のため、上記の電子版では検索できません。当該記事に興味のある方は、公共図書館等の蔵書で「読売新聞縮刷版」を閲覧ください。（読売新聞東京本社に記事複写お取り寄せ希望の場合は、別途手数料がかかりますので注意）

また、上記6人は検索条件「福島県」でデータを絞ったため、県外出身で安高卒業生の場合、記事が埋もれている可能性があります。掲載されたのに今回紹介漏れのある方は、ぜひご連絡願います。桑野会会員の皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。
OK工法（床工事・内装工事）・調湿床・松式露床・フローリングボード
フローリングプロック・縁床・ネダホーム・OAフロアーその他一式工事

木質床（フローリング）施工

孝和建商株式会社

千葉県中央区沙見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久（84期）**

電話：043-245-4111 FAX:043-244-9550

携帯：080-2045-0962

E-mail: nobuhisakoba@docomo.ne.jp

古川 清（63期）

株式会社開成プランニング 代表取締役
(http://www.kaisei-planning.co.jp)

和田 正哉（77期）

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2

勤務先電話：03-3230-8001

FAX：03-3230-8550

携帯：090-3236-3883

e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp

携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp

自宅電話：047-332-2287

令和元年度決算報告書

I 収支計算書 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

| | | 決 算 額 | 予 算 額 |
|-------|---------------------|-----------|-----------|
| 収入の部 | (1) 前年度繰越金 | 252,017 | 252,017 |
| | (2) 年会費収入 | 827,000 | 880,000 |
| | (3) 総会費収入 | 964,000 | 920,000 |
| | (4) 協賛広告料 | 360,000 | 360,000 |
| | (5) 受取利息 | 3 | 4 |
| | (6) 雑 収 入 | 52,000 | 30,000 |
| | 収入合計 | 2,455,020 | 2,442,021 |
| 支出の部 | (1) 総会懇親会費 | 1,010,867 | 1,000,000 |
| | (2) 通 信 費 | 42,801 | 47,000 |
| | (3) 会 議 費 | 0 | 0 |
| | (4) 会報作成費 | 346,896 | 346,896 |
| | (5) 会報発送費 | 267,505 | 267,708 |
| | (6) 事務消耗品費 | 119,009 | 150,000 |
| | (7) 母校後援費 | 0 | 20,000 |
| | (8) 冠婚葬祭費 | 0 | 20,000 |
| | (9) 支払手数料 | 51,265 | 50,000 |
| | (10) 人 件 費 | 380,000 | 380,000 |
| | (11) 交 通 費 | 20,970 | 30,000 |
| | (12) 名簿編集費 | 0 | 0 |
| | (13) ホームページ・広報部会運営費 | 34,960 | 30,000 |
| | (14) 雑 費 | 5,514 | 10,000 |
| | (15) 予 備 費 | 27,610 | 50,000 |
| 支出合計 | 2,307,397 | 2,401,604 | |
| 次期繰越金 | 147,623 | | |

令和2年度予算案

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

| | | 予 算 額 |
|--------|---------------------|-----------|
| 1 収入の部 | (1) 前年度繰越金 | 147,623 |
| | (2) 年会費収入 | 850,000 |
| | (3) 総会費収入 | 0 |
| | (4) 協賛広告料 | 360,000 |
| | (5) 受取利息 | 3 |
| | (6) 雑 収 入 | 30,000 |
| | 収入合計 | 1,387,626 |
| 2 支出の部 | (1) 総会懇親会費 | 0 |
| | (2) 通 信 費 | 50,000 |
| | (3) 会 議 費 | 0 |
| | (4) 会報作成費 | 347,600 |
| | (5) 会報発送費 | 269,047 |
| | (6) 事務消耗品費 | 150,000 |
| | (7) 母校後援費 | 20,000 |
| | (8) 冠婚葬祭費 | 20,000 |
| | (9) 支払手数料 | 50,000 |
| | (10) 人 件 費 | 360,000 |
| | (11) 交 通 費 | 30,000 |
| | (12) 名簿編集費 | 0 |
| | (13) ホームページ・広報部会運営費 | 30,000 |
| | (14) 雑 費 | 10,000 |
| | (15) 予 備 費 | 50,000 |
| 支出合計 | 1,386,647 | |
| 次期繰越金 | 979 | |

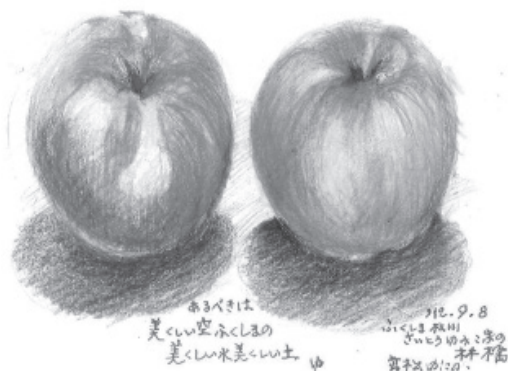
II 財産目録 (令和2年3月31日現在)

A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,067,922

B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 111,850
 (2) 郵便振替貯金 28,311
 (3) 現金 7,462



株式会社 櫻井計画工房
 取締役 一級建築士
櫻井 淳 (78期)

郵便番号: 231-0014
 住所: 横浜市中区常盤町2-10
 常盤不動産ビル2F106
 TEL: 045-663-9271
 FAX: 045-663-9273

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一 (82期)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15
 青柳ビル7階
 TEL: 03-3289-1411
 FAX: 03-3289-1422
 E-mail: s-ishi@e-1411.com
 http://www.e-1411.com

【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

◆会報43号の表紙の絵は水田先生の描いた「つつじ咲く安積高校」であります。小島稔校長先生の寄稿は、校長室に飾られまでの経緯が語られ、感心しながら、懐かしく見る事が出来ました。小島校長先生には、一度お会いしてお話をしたかったが叶わず。退職とのこと、お疲れ様でした。◆水田先生は私の恩師で、1年間美術部でお世話になり、今年1月の召された高松先輩とは、共に水田先生教え子であり、会報づくりでは水田先生のスケッチを多く頂き、会報では大変お世話になりました。◆東京桑野会にとって昨年の斉藤英彦先輩、今年の高松豊先輩と大きな痛手でした。コロナ過にあっても東京桑野会は頑張ります。昨日は3.11の10年目、福島を忘れない、節目の号になりました。渡部広報部長本当にご苦労さまでした。(78期・櫻井淳)

◆2年前2019年4月、60歳定年を前にして再度の関連会社出向を命じられ、そのまま同社で定年を迎え、64

歳までの再雇用期間を過ごすのだろうと、未来予想図を描いていました。

しかし、コロナ禍の影響もあり、翌2020年9月末をもって同社解散に至り、昨年末までの3か月間は残務整理とプロパー社員の再就職支援に追われました。前回出向時の別の関連会社では、同業他社の吸収合併M&Aを経験して就業規則や給与体系等の統合調整に尽力しましたが、会社解散時の後始末の過酷さはその比ではありません。新年から本社に復職し、こうして会報原稿を書いていられる境遇に感謝の日々です。(＠91まだ現役組)

◆この1年はコロナに明け暮れ、1年前に時を戻したいと思うのは私だけであろうか。生活は一変し経済も悪化、明日は我が身かと感染に恐々としている毎日である。東京桑野会の活動も停止し、定期総会のみならず役員・幹事会をはじめ同好の個別懇親会やゴルフ会も中止となった。今年の開催も危ういところである。日本国内でもワクチン接種が始まったが、どこまで効果があるのか感染拡大を防止できるのか、未知数である。このコロナ禍の最中、

米国大統領選挙が敢行されバイデン新大統領が誕生し、我が国も安倍政権から菅政権へとバトンタッチしたが、担う責務は非常に大きい。

ともかくにも感染防止の基本策を忠実に遵守し、マスク手洗い不要不急の外出の自粛を守りたい。自分のためだけでなく、接する他人のためにもである。(がっちゃん)

◆若いころ、自分の人生で歴史に残るようなことに出会うことなんか無いのだろうか、と漠然と思っていた。しかし、30代に阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件、50代に東日本大震災、そして60代にCOVID-19である。それらの災害・事件に、どう向かってきたか、その解決にどう寄与できたか……。1年前に定年退職し、今は再任用された第2の職場で働いている。残された人生の時間を、働く以外にどう使うか。自分の人生を拓いてくれた安積に対し、東京桑野会広報部長としてお役にたてればと思う。皆さん、東京桑野会報に寄稿してください!!!。(GF91)



『東京桑野会会報』No.43

2021年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515
